

大東文化大学合同研究会「大河内文庫を考える―大河内一男を中心に―」
閉会の辞「大河内一男氏についての印象」

東京大学名誉教授 石井寛治

本日は大河内一男氏を中心とする大河内文庫の成立を記念する研究会に参加させて頂き、色々と勉強ができて有難うございました。私はたまたま本学の幾つかの研究グループに参加してきた関係で、ご挨拶させて頂きます。暁男氏とその夫人を含む 3 人の大河内先生の蔵書・資料がこのように本学の図書館に所蔵されて多くの研究者に公開されることは、日本の人文社会系学界にとって大変貴重な貢献であり、面倒な整理・分類作業を敢えて引き受けて大河内文庫を完成されたことに対して、研究者の一人として厚くお礼申し上げたいと思います。

お礼のご挨拶のついでに、私が大河内一男先生から受けた印象について二点だけ話させて頂きます。私は大河内先生と個人的にお話したことはありませんが、安田講堂にあった総長室に仲間とお尋ねした経験が一回あります。それは 1965 年の日韓条約締結にさいして、批判集会を東大の助手有志で開こうとして、法学部や経済学部の先生方に講師をお願いした上で、人集めには総長に来て頂くのが一番ということになり、冒頭の挨拶をお願いしようとしたのです。入ったこともない広い総長室に仲間の助手と一緒に恐る恐る入ったのですが、大河内総長はわれわれの集会の趣旨をじっくりと聞いてくださり、集会への出席を約束して下さいました。総長が何を言われるか聞きたいと思う教職員、学生は沢山いて、会場は満員の大盛況でした。講演と議論の中味は忘れてしまいましたが、大河内先生のにこやかな対応だけは記憶にしっかりと残っています。

このように若い研究者の意見にフランクに耳を傾ける大河内先生の態度は、所謂大河内学派のあり方にも反映しているように思います。カリスマ的な大先生を中心とした学派は世の中に沢山ありますが、大河内学派では大河内理論を正面から批判できるものだけが一人前のメンバーとして認められたそうです。大抵の学派は大先生の意見の信奉者の集まりで、大先生の意見を批判することは容易なことではなく、下手をすると異端として破門の憂き目に会うことがあります。大河内学派はそうした一般傾向とはかなり違っていただけです。そのためでしょうか大河内学派からは優れた個性的な研究者が輩出しました。

もう一つは、学部での「社会政策」の講義で受けた印象です。私は学部の講義にはあまり熱心には出席していませんでしたが、「社会政策」の講義もテキストに沿って行われましたので、きちんと出席しなくても良さそうだと思っていました。そのなかで、たまたま出席した先生の講義で聞いたのが、日本の労働組合の活動の現状に対する批判でした。先生は、日本の労働組合は自分たちの本来の役目が日常的な労働条件や賃金の改善にあることを忘れて社会主義を目指す政治活動に夢中になることが多いけれども、これは問題だということを指摘されたのです。当時の私は労働者が組合活動を通じて政治意識を高め、来るべき社会主義革命に突き進むのは当然だと思っていましたので、大河内理論は随分保守的なんだなという印象をもちました。

しかし、今になって振り返ると、この批判は、1950 年代末の日本の労働運動の欠陥を鋭

く指摘するものだったと思います。戦後の労働改革では、労働者の団結権が一举に与えられたため、戦前からの労働者の「人格承認要求」という市民的自由との繋がりが十分意識されず、労働者個人よりも労働組合が重視され、組合の統制を乱す者は階級的な裏切り分子とされましたが、そのことは地道な組合運動の発展を歪めたように思われます。当時の労働法学の主流は、市民法を前提として労働法体系を構築するより、市民法と対決しつつ乗り越えることに力を注いだと言われますが、大河内先生の批判はそのことの問題点を鋭く指摘したのです。

こうした批判は、大河内先生が1984年に亡くなった後の87年の国鉄再建で戦闘的な国鉄労働組合が潰される際の組合側の弱点への批判だったとも言えましょう。今日の日本を席卷しつつある「新自由主義」政策は、英米流の「市場原理主義」的なものであって、労働組合の要求を政府が汲み上げて経営側の要求と調整するという独仏流の「社会的市場経済」タイプの新自由主義と違っていています。そうなったのは、日本の労働運動があまりに階級闘争的に先鋭化したために中曽根内閣以降足を掬われて弾圧されたためだとすれば、大河内先生からの批判を今日改めて受け止める必要があるでしょう。その意味では、大東文化大学の大河内文庫は、これからの日本の進路を考えるために貴重な知恵が詰まった文庫として大変重要な役割を果たすようになると思いますし、今日のご報告の幾つかは、そうした可能性を証明しているように思います。

簡単ですが、以上をもってご挨拶とさせていただきます。本日は有難うございました。